

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科(専門職大学院)の設置								
フリガナ設置者	コクリツカクホウジンフクイカク 国立大学法人 福井大学								
フリガナ大学の名称	フクイカクダクホウケン 福井大学大学院 (Graduate School, University of Fukui)								
大学本部の位置	福井県福井市文京三丁目9番1号								
大学の目的	<p>学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>国際地域マネジメント研究科では、グローバル化の進展に関連して、地方の企業や自治体が抱える諸課題の解決に挑戦する優れたマネジメント・リーダーの育成を基本とし、そのために必要な国際的な視野と専門知識、および事業の企画・運営に必要な実践的能力と語学能力を含む交渉力を備えた地域人材を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学員定員 年次人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年月 第 年次	所在地	14条特例の実施  専門職大学院
	国際地域マネジメント研究科 [The Professional Graduate School of Global and Community Management]								
	国際地域マネジメント専攻 [Department of Global and Community Management]	2	7	0	14	国際地域マネジメント修士 (専門職) [Master of Global and Community Management]	2020年4月 第1年次	福井県福井市文京三丁目9番1号	
	計		7	0	14				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>大学院教育学研究科</p> <p style="padding-left: 20px;">学校教育専攻（修士課程） [廃止] (△27) (2020年4月) ※2020年4月学生募集停止</p> <p>大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科</p> <p style="padding-left: 20px;">教職開発専攻（教職大学院の課程） [定員増] ( 20) (2020年4月)</p> <p>大学院工学研究科</p> <p style="padding-left: 20px;">機械工学専攻（博士前期課程） [廃止] (△32) (2020年4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">電気・電子工学専攻（博士前期課程） [廃止] (△30) (2020年4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">情報・メディア工学専攻（博士前期課程） [廃止] (△31) (2020年4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">建築建設工学科専攻（博士前期課程） [廃止] (△28) (2020年4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">材料開発工学専攻（博士前期課程） [廃止] (△24) (2020年4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">生物応用化学専攻（博士前期課程） [廃止] (△21) (2020年4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">物理工学専攻（博士前期課程） [廃止] (△18) (2020年4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">知能システム工学専攻（博士前期課程） [廃止] (△27) (2020年4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">繊維先端工学専攻（博士前期課程） [廃止] (△15) (2020年4月)</p> <p style="padding-left: 20px;">原子力・エネルギー安全工学専攻（博士前期課程） [廃止] (△27) (2020年4月)</p> <p style="padding-left: 40px;">※廃止する上記10専攻について、2020年4月学生募集停止</p> <p style="padding-left: 20px;">産業創成工学専攻（博士前期課程） ( 85) (2019年4月 事前伺い)</p> <p style="padding-left: 20px;">安全社会基盤工学専攻（博士前期課程） ( 84) (2019年4月 事前伺い)</p> <p style="padding-left: 20px;">知識社会基礎工学専攻（博士前期課程） ( 84) (2019年4月 事前伺い)</p>								

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	国際地域マネジメント研究科 国際地域マネジメント専攻	17科目	13科目	0科目	30科目	30単位		
教員	学部等の名称	専任教員等						兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	国際地域マネジメント研究科 国際地域マネジメント専攻 (専門職学位課程)	9 (9)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	11 (11)
	工学研究科 産業創成工学専攻 (博士前期課程)	18 (18)	20 (20)	1 (1)	1 (1)	40 (40)	0 (0)	39 (39)
	安全社会基盤工学専攻 (博士前期課程)	27 (27)	20 (20)	9 (9)	4 (4)	60 (60)	0 (0)	49 (49)
	知識社会基礎工学専攻 (博士前期課程)	31 (31)	23 (23)	3 (3)	5 (5)	62 (62)	0 (0)	33 (33)
	計	85 (85)	70 (70)	14 (14)	10 (10)	179 (179)	0 (0)	— (—)
既設	連合教職開発研究科 教職開発専攻 (専門職学位課程)	27 (27)	40 (40)	6 (6)	2 (2)	75 (75)	0 (0)	18 (18)
	医学系研究科 看護学専攻 (修士課程)	8 (8)	5 (5)	5 (5)	11 (11)	29 (29)	0 (0)	70 (70)
	医学系研究科 統合先進医学専攻 (博士課程)	42 (42)	39 (39)	31 (31)	104 (104)	216 (216)	0 (0)	9 (9)
	工学研究科 総合創成工学専攻 (博士後期課程)	70 (70)	54 (54)	5 (5)	0 (0)	129 (129)	0 (0)	7 (7)
	産学官連携本部	2 (2)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	附属国際原子力工学研究所	11 (11)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
	高エネルギー医学研究センター	2 (2)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
	遠赤外線領域開発研究センター	5 (5)	6 (6)	0 (0)	5 (5)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
	子どものこころの発達研究センター	2 (2)	2 (2)	1 (1)	6 (6)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
	繊維・マテリアル研究センター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	ライフサイエンス支援センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	0 (0)
	ライフサイエンスイノベーションセンター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	アドミッションセンター	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	語学センター	0 (0)	3 (3)	2 (2)	4 (4)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
	国際センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	テニュアトラック推進本部	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	保健管理センター	1 (1)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	計	174 (174)	160 (160)	55 (55)	136 (136)	525 (525)	0 (0)	— (—)
	合計	259 (259)	230 (230)	69 (69)	146 (146)	704 (704)	0 (0)	— (—)
教員以外の職員の概要	職種	専任		兼任		計		
	事務職員	283 (283)		332 (332)		615 (615)		
	技術職員	1,132 (1,132)		185 (185)		1,317 (1,317)		
	図書館専門職員	5 (5)		5 (5)		10 (10)		
	その他の職員	17 (17)		17 (17)		34 (34)		
計	1,437 (1,437)		539 (539)		1,976 (1,976)			

2019年4月事前  
伺い  
2019年4月事前  
伺い  
2019年4月事前  
伺い

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	267,651㎡	0㎡	0㎡	267,651㎡					
	運 動 場 用 地	94,273㎡	0㎡	0㎡	94,273㎡					
	小 計	361,924㎡	0㎡	0㎡	361,924㎡					
	そ の 他	181,060㎡	0㎡	0㎡	181,060㎡					
合 計	542,984㎡	0㎡	0㎡	542,984㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		138,456㎡ ( 138,456㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	138,456㎡ ( 138,456㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	71 室	99 室	426 室	18室 (補助職員 3 人)	4 室 (補助職員 3 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		国際地域マネジメント研究科		17 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なた め、大学全体の 数		
	国際地域マネジメント研究科 国際地域マネジメント専攻	677,450 [203,350] ( 663,311 [201,333] )	32,700 [19,450] ( 32,516 [19,308] )	15,500 [1,400] ( 15,344 [14,032] )	5,700 ( 5,436 )	6,000 ( 5,893 )	1 ( 1 )			
	計	677,450 [203,300] ( 663,311 [201,333] )	32,700 [19,450] ( 32,516 [19,308] )	15,500 [1,400] ( 15,344 [14,032] )	5700 ( 5,436 )	6,000 ( 5,893 )	1 ( 1 )			
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		8,653 ㎡	827		788,333					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		3,929 ㎡	屋外球技コート, プール, 野球場							
経 費 の 見 積 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	国費（運営費交付金）による
		教員 1 人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	—	
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			—							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	福 井 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	【学部】	年	人	年次 人	人		倍			
	教育学部 学校教育課程	4	100	—	400	学士(教育学)	1.03 1.03	平成28年度	福井県福井市文京 三丁目9番1号	
	教育地域科学部 学校教育課程	4	—	—	—	学士(教育学)	—	平成11年度	福井県福井市文京 三丁目9番1号	
	地域科学課程	4	—	—	—	学士 (地域科学)	—	平成20年度	福井県福井市文京 三丁目9番1号	
医学部 医学科	6	110	2年次 5	685	学士(医学)	1.01 1.00	昭和55年度	福井県吉田郡永平寺 町松岡下合月23号 3番地		
看護学科	4	60	—	240	学士(看護学)	1.03	平成9年度	福井県吉田郡永平寺 町松岡下合月23号 3番地		

既設大学等の状況	工学部			3年次			1.02		福井県福井市文京三丁目9番1号		
	機械・システム工学科	4	155	10	475	学士(工学)	1.01	平成28年度			
	電気電子情報工学科	4	125	20	395	学士(工学)	1.02	平成28年度			
	建築・都市環境工学科	4	60	10	190	学士(工学)	1.05	平成28年度			
	物質・生命化学科	4	135	—	405	学士(工学)	1.03	平成28年度			
	応用物理学科	4	50	—	150	学士(工学)	1.05	平成28年度			
	機械工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成11年度		平成28年度より学生募集停止	
	電気・電子工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成11年度		平成28年度より学生募集停止	
	情報・メディア工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成11年度		平成28年度より学生募集停止	
	建築建設工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成11年度		平成28年度より学生募集停止	
	材料開発工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成11年度		平成28年度より学生募集停止	
	生物応用化学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成11年度		平成28年度より学生募集停止	
	物理工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成11年度		平成28年度より学生募集停止	
	知能システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成11年度		平成28年度より学生募集停止	
	国際地域学部							1.05		福井県福井市文京三丁目9番1号	
	国際地域学科	4	60	—	240			1.05	平成28年度		
	【大学院】										
	教育学研究科									福井県福井市文京三丁目9番1号	
	学校教育専攻 (修士課程)	2	27	—	54	修士(教育学)	0.82	平成20年度			平成30年度より入学定員変更(30→27)
	福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科									福井県福井市文京三丁目9番1号	
教職開発専攻 (教職大学院の課程)	2	40	—	80	教職修士(専門職)	0.84	平成30年度				
医学系研究科									福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23号3番地		
看護学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士(看護学)	0.83	平成13年度				
統合先進医学専攻 (博士課程)	4	25	—	100	博士(医学)	0.90	平成25年度				
先端応用医学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成20年度			平成25年度より学生募集停止	
工学研究科									福井県福井市文京三丁目9番1号		
機械工学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士(工学)	1.32	平成15年度				
電気・電子工学専攻 (博士前期課程)	2	30	—	60	修士(工学)	0.98	平成15年度				
情報・メディア工学専攻 (博士前期課程)	2	31	—	62	修士(工学)	1.09	平成15年度				
建築建設工学専攻 (博士前期課程)	2	28	—	56	修士(工学)	0.94	平成15年度				
材料開発工学専攻 (博士前期課程)	2	24	—	48	修士(工学)	1.20	平成15年度				
生物応用化学専攻 (博士前期課程)	2	21	—	42	修士(工学)	1.23	平成15年度				
物理工学専攻 (博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.05	平成15年度				
知能システム工学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(工学)	1.07	平成15年度				

既設大学等の状況	繊維先端工学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士(工学)	1.83	平成25年度	平成25年度より 学生募集停止
	原子力・エネルギー 安全工学専攻 (博士前期課程)	2	27	—	54	修士(工学)	0.75	平成16年度	
	総合創成工学専攻 (博士後期課程)	3	22	—	66	博士(工学)	0.92	平成25年度	
	システム設計工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成5年度	
附属施設の概要	<p>○医学部附属病院 目的：診療を通じて医学の教育及び研究の向上を図る。 所在地：吉田郡永平寺町松岡下合月23号3番地 設置年月：昭和58年4月1日 規模等：71,684m<sup>2</sup></p> <p>○教育学部附属幼稚園・義務教育学校 目的：幼児の保育，児童・生徒の教育を実施し，保育又は教育の理論及び実践に関する研究に寄与するとともに，教育学部学生の教育実習の実施に当たることを目的とする。 所在地：福井市二の宮4丁目45番1号 設置年月：〔幼稚園〕昭和42年6月1日，〔義務教育学校〕平成29年4月1日 規模等：11,726m<sup>2</sup></p> <p>○教育学部附属特別支援学校 目的：知的障害児が，その障害に基づく生活上の困難を改善・克服し，可能な限り社会参加ができるような生活態度と能力を育成することを目的とする。 所在地：福井市八ツ島町1字3 設置年月：昭和46年4月1日 規模等：4,642m<sup>2</sup></p> <p>○産学官連携本部 目的：地域企業に「技術開発」と「人材育成」に関するソリューションを提供し，その連携を通じて大学における多様かつ持続的な「知」の創出に貢献する。 所在地：福井市文京三丁目9番1号 設置年月：平成19年11月1日 規模等：3,556m<sup>2</sup></p> <p>○附属国際原子力工学研究所 目的：世界トップレベルの特色ある原子力人材育成及び研究開発を行い，環境と調和した持続的なエネルギー供給基盤を持つ世界の構築に貢献することを目的とする。 所在地：敦賀市鉄輪町1丁目3番33号 設置年月：平成21年4月1日 規模等：6,997m<sup>2</sup> (借地)</p> <p>○高エネルギー医学研究センター 目的：放射線医学研究を通じて，原子力の平和利用と未来への扉をたたき，高度先端医療技術推進水準の向上を目的とする。 所在地：吉田郡永平寺町松岡下合月23号3番地 設置年月：平成6年5月20日 規模等：1,236m<sup>2</sup></p> <p>○遠赤外線領域開発研究センター 目的：独自に開発した高出力遠赤外線光源「ジャイロトロン」をさらに高度化する研究開発とともに，高出力遠赤外線光源を用いて初めて可能になる遠赤外線領域の先進的・先導的研究の実践を目的とする。 所在地：福井市文京三丁目9番1号 設置年月：平成11年4月1日 規模等：2,629m<sup>2</sup></p> <p>○保健管理センター 目的：大学における保健管理に関する専門的業務を一体的に行い，学生及び教職員の心身の健康の保持増進を図る。 所在地：福井市文京三丁目9番1号 設置年月：昭和47年4月1日 規模等：354m<sup>2</sup></p>								

( 白 紙 ペ ー ジ )

# 国立大学法人福井大学 設置申請に関わる組織の移行表

2019年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2020年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>福井大学</b>				<b>福井大学</b>				
教育学部 学校教育課程	100	-	400	教育学部 学校教育課程	100	-	400	
医学部	2年次			医学部	2年次			
医学科	110	5	685	医学科	110	5	685	
看護学科	60	-	240	看護学科	60	-	240	
工学部	3年次			工学部	3年次			
機械・システム工学科	155	10	640	機械・システム工学科	155	10	640	
電気電子情報工学科	125	20	540	電気電子情報工学科	125	20	540	
建築・都市環境工学科	60	10	260	建築・都市環境工学科	60	10	260	
物質・生命化学科	135	-	540	物質・生命化学科	135	-	540	
応用物理学科	50	-	200	応用物理学科	50	-	200	
国際地域学部 国際地域学科	60	-	240	国際地域学部 国際地域学科	60	-	240	
計	855	5	3,745	計	855	5	3,745	
		40				40		
<b>福井大学大学院</b>				<b>福井大学大学院</b>				
教育学研究科 学校教育専攻(M)	27	-	54		0	-	0	2020年4月学生募集停止
福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合 教職開発研究科 教職開発専攻(P)	40	-	80	福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合 教職開発研究科 教職開発専攻(P)	60	-	120	定員変更(20)
医学系研究科 看護学専攻(M)	12	-	24	医学系研究科 看護学専攻(M)	12	-	24	
統合先進医学専攻(D)	25	-	100	統合先進医学専攻(D)	25	-	100	
工学研究科 機械工学専攻(M)	32	-	64		0	-	0	2020年4月学生募集停止
電気・電子工学専攻(M)	30	-	60		0	-	0	2020年4月学生募集停止
情報・メディア工学専攻(M)	31	-	62		0	-	0	2020年4月学生募集停止
建築建設工学専攻(M)	28	-	56		0	-	0	2020年4月学生募集停止
材料開発工学専攻(M)	24	-	48		0	-	0	2020年4月学生募集停止
生物応用化学専攻(M)	21	-	42		0	-	0	2020年4月学生募集停止
物理工学専攻(M)	18	-	36		0	-	0	2020年4月学生募集停止
知能システム工学専攻(M)	27	-	54		0	-	0	2020年4月学生募集停止
繊維先端工学専攻(M)	15	-	30		0	-	0	2020年4月学生募集停止
原子力・エネルギー 安全工学専攻(M)	27	-	54		0	-	0	2020年4月学生募集停止
総合創成工学専攻(D)	22	-	66	産業創成工学専攻(M)	85	-	170	研究科の専攻の設置 (事前伺い)
				安全社会基盤 工学専攻(M)	84	-	168	研究科の専攻の設置 (事前伺い)
				知識社会基礎 工学専攻(M)	84	-	168	研究科の専攻の設置 (事前伺い)
				総合創成工学専攻(D)	22	-	66	
計	379	-	830	国際地域マネジメント研究科 国際地域マネジメント専攻(P)	7	-	14	研究科(専門職大学院)の 設置(意見伺い)
				計	379	-	830	

( 白 紙 ペ ー ジ )



教育課程等の概要																
(国際地域マネジメント研究科国際地域マネジメント専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
ベーシック科目	国際・地域	海外事情研究Ⅰ	1前	2			○			2	1					オムニバス
		海外事情研究Ⅱ	1後	2			○			2	2					オムニバス
		国際関係論	1前	2			○			1						
		地域産業論	1前	2			○			1						
	小計(4科目)			8			—			6	3					
	マネジメント	経営戦略論	1前	2			○					1				
		マーケティング論Ⅰ	1後	2			○				1					
		データ分析手法	1後	2				○		1	1					オムニバス
		小計(3科目)			6			—			1	2	1			
	アドバンス科目	企画・交渉力に関する分野	事業デザイン論	1前	2			○			1	1				
海外事業実践論			2前	2			○			1						
小計(2科目)				4			—			1	1					
個別課題に関する分野		国際交渉研究	1後	2			○			1						兼1 集中
		移民問題	2前	2			○									兼1 集中
		東南アジアビジネス事情	1後	2			○									
		地場産業の海外展開	2前	2			○			1						
		地域の産業発展	2前	2			○			1						
		まちづくり・観光マネジメント論	2前	2				○								兼3 オムニバス
		企業会計・財務・データ分析	2前	2			○			1	1					兼1 オムニバス
		マーケティング論Ⅱ	2前	2			○				1					
		管理者行動論	2前	2			○									兼1 集中
		国際ビジネスリスク論	2前	2			○			1						
小計(10科目)			20			—			5	2					兼7	
語学系科目		English CommunicationⅠ	1前	1				○								兼1
	English CommunicationⅡ	1後	1				○								兼1	
	English Reading/WritingⅠ	1前	1				○								兼1	
	English Reading/WritingⅡ	1後	1				○								兼1	
	Intercultural Communication	2前	1				○			1						
	コミュニケーション中国語	1後	1				○			1						
	小計(6科目)			6			—				2					兼4
ワークショップ	事業課題ワークショップ	1後	1				○		4	2	1				集中、共同	
	小計(1科目)			1			—			4	2	1				
海外実地研修	海外実地研修A	2後	2				○		9	7	1				共同	
	海外実地研修B	2後	3				○		3	2					共同	
	海外実地研修C	2後	4				○		4	2					共同	
	小計(3科目)			9			—			9	7	1				
最終報告	最終報告書	2後	2				○		9	7	1				共同	
	小計(1科目)			2			—			9	7	1				
合計(30科目)			21	35	0	—			9	7	1	0	0	兼11		
学位又は称号		国際地域マネジメント修士(専門職)			学位又は学科の分野			経済学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
修了要件については、ベーシック科目14単位、アドバンス科目の(企画・交渉力に関する分野)4単位と(個別課題に関する分野)4単位以上、語学系科目3単位以上、ワークショップ1単位、海外実地研修2単位以上、及び最終報告2単位の合計30単位以上を修得すること。								1学年の学期区分			2学期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

( 白 紙 ペ ー ジ )

授 業 科 目 の 概 要			
(国際地域マネジメント研究科国際地域マネジメント専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ベーシック科目 国際・地域	海外事情研究Ⅰ	<p>この科目では、経済成長力に富み日本との繋がりが拡大しているアジア諸国の現地事情について主体的に学ぶ。アジアには重厚な歴史を背負った言語・民族・宗教が多くあり、様々な市場を通じて日本との経済的な関係を今後強めていくうえでも、個々の国に存続する社会的慣行や文化的個性への目配りは欠くことができない。古来からの大国で文明中心といえる中国・インドはもとより、それ以外の東南アジアなどの地域でも各国事情についての深い理解が求められる。本授業では、中華経済圏の性格を強く持つ東アジア・東南アジアとインド経済圏の性格を強く持つ南アジアの国々について、基礎的な知識を修得するとともに、経済活動を行う際に必要となる現地情報の収集方法を学ぶことで、各国とのビジネス分野における関係強化や文化交流を図るプランを立案し提言できる能力を培う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>5 月原敏博/6回 ・アジア概説(東南アジアと南アジアの概況含む) 東南アジアと南アジアの国々を中心に、民族・宗教、産業・文化・生活などの特徴について、その多様性や相互の影響を含めて学び、この地域を理解する視点を身につける。</p> <p>8 永井崇弘/4回 ・中国概況 現代中国の社会制度、言語、歴史、文化、宗教などの基本事項を理解するとともに、今後中国经济の中心地となることが予測される「広東・香港・マカオ大湾区」を含む中国の主要都市や地域についての理解を深める。 また、現代中国の情報を収集するため必要な情報源(SNS、国内外メディア等)について学び、情報収集スキルを身につける。そして、中国を総合的に理解するために修得した情報収集スキルを用いて実際に情報を収集しまとめる。</p> <p>13 大橋祐之/5回 ・中国におけるビジネス概況 先の「中国概況」で修得した知識を基に、中国ビジネスの実務において必要な知識を身につける。具体的には、中国との貿易、中国への直接投資(進出地区による比較、投資形態による比較)、金融制度、税制、人材市場、ビジネス慣行、トラブル対処法等について理解を深める。 また、中国改革開放から40年で、時代に応じて様々な投資例が積み上がっており、それらをケーススタディし、中国ビジネス成功への道を探る。</p>	オムニバス方式
	海外事情研究Ⅱ	<p>欧州においては、経済のグローバル化と連動した経済構造の変化、移民や少子高齢化に伴う社会の変化や文化的摩擦、地球的規模での気候変動に対する対処といった先進諸国共通の構造的諸問題が、EU統合の深化によって増幅された形で影響を及ぼしている。共通通貨ユーロの導入、二酸化炭素排出削減等共通政策の範囲の拡大、EU内の労働者の移動の本格的自由化といった近年の統合の進展は、欧州の社会経済的発展に大きく寄与した。しかし、その反面、EU統合の深化は主権国家という従来の枠組を変容させ、各国国民のアイデンティティに再考を迫るといった側面も持っており、イギリスのEU離脱や各国におけるポピュリスト政党の台頭に象徴されるような統合に逆行する動きも見られる。</p> <p>この科目においては、以上のようなダイナミックな変化を遂げつつある欧州において、文化や思想・宗教、家族や社会、法制度や政治制度等がどのような発展と変化をとげてきたかについて、事例を通じて具体的に考察することを通じて、欧州の現状に関する幅広い知識と批判的かつ論理的思考力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>① 横井正信/4回 近年の欧州において議論的となってきた政策課題やそれと連動した政党政治の変化を概観し、グローバル化やEU統合の深化等との関連性について学ぶ。</p> <p>4 松田和之/4回 ヘレニズムとヘブライズムの双方の観点より、西欧社会の基礎となっている文化・思想・宗教の特色とその変遷について学ぶ。</p> <p>③ 磯崎康太郎/4回 20世紀の欧州史に焦点を当て、さまざまな事例を通じて、世代間での認識の変化やその社会、文化への影響について学ぶ。</p> <p>④ 生駒俊英/3回 欧州諸国における個人や家族の生活の多様化や少子高齢化の進行に伴って、どのような問題が議論され、また制度設計に反映されつつあるのかを概観し、理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際・地域	国際関係論	<p>本科目は、当研究科が目指す、地域の国際化に貢献する高度プロフェッショナルの養成に向けて、まず国際関係のあり方に係る原理を教授する基本科目である。国際政治、国際経済、グローバル化、国際法、外交、国際機構、及びそれらの全ての背景にある歴史と、国際関係理論を踏まえ、国際社会の仕組みとあり方について、具体的事例も交えつつ、体系的に取り上げる。教員より導入となる講義は行うが、大半は院生が主体となる種々の形のアクティブ・ラーニングを通して、それら国際社会の諸相を横断的に研究、考察する。また、当研究科の基本テーマである「国際社会と地域との連関」について、グローバル化の派生概念である「グローバル化」に係る最先端研究の学習を通して、基礎的な理解を構築する。この基本概念に立って、当研究科の各科目（国際交渉研究、海外事情研究、地域の産業発展など）の間の学際的連携・統合を図る理論的な基盤を習得する。</p>	
	地域産業論	<p>地域にある各産業の現状を、各種統計や調査結果などの分析、企業関係者へのヒアリングを通して学ぶとともに、これまでの環境変化に対する具体的な企業、産業毎の対応事例を研究することで、今後の企業経営に必要な対応力を学ぶ。</p> <p>また、授業では、院生が所属する企業の取り組みや他社の動きなどの事例を持ち寄り、アクティブ・ラーニングの手法にも取り組み、さらに、これから起こってくる更なるグローバル化や海外マーケットの拡大、国内の人口減少や産業への影響などの環境変化を予測しながら、今後、企業が取るべき対応策についても提案できる力を身につける。</p>	
ベーシック科目	経営戦略論	<p>本講義は、経営戦略の様々な考え方や概念・理論を習得した上で、実際の企業活動を説明することを目指す。まず、テキストを輪読して経営戦略論の理解を深め、その後、様々な企業組織の活動へ適用することに取り組む。最近注目されている概念「ビジネスモデル」も取り上げ、またグループごとの事例研究の発表を行う。初めは教員主導で行うが、半ば以降は院生同士で双方向の議論を重視した講義とする。これらによって、院生が経営戦略論の知識を用いて、企業や組織の現象を説明・解釈できる能力を身につけることを目標とする。</p>	
	マーケティング論 I	<p>本講義は、院生がマーケティングの全体像及びマーケティング手法についての基礎的な理論を理解することを目指す。講義の内容は、マーケティングを構成する活動（製品戦略、価格戦略、流通チャネル戦略、およびプロモーション戦略）について、テキスト等を元にレクチャーを行う。さらに、グローバルマーケティングといった近年重要性を増すテーマについての理論を学ぶこととする。なお、マーケティング理論を多角的に理解できるようにするために、講義はアクティブラーニングを取り入れた形で行い、様々なケースを用いてディスカッションを行う。</p>	
マネジメント	データ分析手法	<p>この科目では、国際的なビジネスの展開やマーケティング調査に役立つデータを中心に、統計調査や独自調査によって得られた各種のデータやビッグデータから必要なデータを入手・選択・集計・解析し、その結果をグラフや地図を用いて可視化する一連の分析手法を学ぶ。PC端末を用いてWEB上のオープンデータにアクセスして、統計分析とグラフ化にはEXCELなどの統計・分析ツール、地図化についてはWEBGISなどのGISツールを使って作業を行うので実習的要素が多い授業となる。既存のデータをいかに分析し活用できるかがこの科目の主な学習テーマであるが、データの探し方・作り方や記録の方法、さらには独自の調査を計画・実行する方法にも触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>5 月原敏博/8回 WEB上のオープンデータよりデータを収集し、地図化する方法を学ぶ。 WEBGISなどのGISツールを用いて可視化を行う。</p> <p>7 井上博行/7回 統計・調査データの入手や加工の方法を学び、統計・分析ツールを用いて多変量解析や機械学習による分析を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
企画・交渉力に関する分野	事業デザイン論	<p>デザインの本質は、物事の本質を掴み、問題を発見し、設問を作ることにあ る。自社及びケーススタディ等の事例研究を行い、ポジショニングやブラン ディングなど具体的に事業をデザインするとはどういうことなのかを学ぶ。 目先の問題にとらわれず大局観を持って事業を考察し、色々な視点、時間 軸から事業というものを見つめ直す。そうすることで今まで見えなかった問題 を発見し、新しい事業の姿が見えてくることを体感してもらう。さらに、事業 の「らしさ」を文字化、図式化、キャッチコピー化することでその事業の本質 を明確にし、事業を根本から見直すことで、新たな価値創造の契機とする。 また、事業を深く考察する上でクリティカルシンキング（批判的思考）に代 表される各種思考法を身に付ける必要がある。クリティカルシンキング（批判 的思考）のほか、ロジカルシンキング（論理的思考）、クリエイティブシンキ ング（創造的思考）の特徴や内容を理解し、実務で使えるツールとして活用で きることを目指す。 また、顧客の視点に立ち新規事業や新商品開発を考えるデザインシンキング （デザインに必要な考え方や手法を利用して、ビジネス上の問題を解決する方 法）についても習得を目指す。</p>	
	海外事業実践論	<p>日本の企業が海外進出を図る際の具体的な事業展開に関わる実践的な要素を 学ぶ。進出形態別に考察をし、実際に考慮しなければならない諸要素や、事業 の円滑な推進のための現地パートナー戦略、進出後に事業を展開させるうえで 検討しなければならない人材・財務・物流・IT通信戦略などにつき学ぶ。更 に、日本人が普段気付かない宗教への配慮や、異文化の人々とのコミュニケー ションなど、海外事業を推進するために認識しておかなければならない事柄に ついて学ぶとともに、上述したそれぞれに関わるリーダーシップのあり方、 文書交信、交渉の進め方等についても学ぶ。</p>	
アドバンス科目	国際交渉研究	<p>本科目は、1年前期の国際関係論で学習した複眼的・学際的なアプローチを 応用し、現下の主要な国際問題や歴史上の外交事例から、具体的な政策課題を 分野横断的に取り上げる。教員より導入となる講義は行うが、大半は院生が主 体となる種々の形のアクティブ・ラーニングの場を構成することで、外交交渉 の現場における様々な考慮や交渉のあり方を体験的に研究、考察する。そこ では、国内地域も含む全ての社会関係に通底する共通普遍の原理を、院生一人 一人が固有の役割に立ったクリティカル・シンキングを通して体得することが主 眼となる。また、各事例の中で国際問題と地域との関わりも随所で学ぶ。</p>	
	移民問題	<p>近年、世界的な温暖化など気候変動が顕著となり自然災害も多発している。 人口増加が続くなか生産性の高い農地は減少し鉱物資源をめぐる争奪も厳しく なっている。これらを背景に、局地的な戦争・内戦が発生しやすくなってい る。さらに世界経済危機後、先進国経済が停滞し、新興国経済が影響力を増す なかで、各国内の経済格差が拡大し、債務の累積や統治機能の低下をきたす国 が増えている。 これと同時に、欧米だけでなくアジアでも今世紀になって地域経済統合が進 展し、貿易・直接投資の拡大と共に国際的な人の移動も活発化している。そこ では労働力移動だけでなく、留学生の移動、家族の移動、ディアスポラと帰還 移民の増加、外国人二世・三世の増加など多様な動きが生じている。 国連推計では、2000年から2017年まで、国籍と異なる国に移動して1年以上 滞在する人々は倍増して2億6000万人を超え、特に2012年以降は、内戦や戦争 などで危機にさらされた多数の人々が、難民・避難民などとして国外に流出す る事態が生じている。 本講義では、拡大する国際的な人の移動のプラスの効果を生かし、マイナス の効果を予防又は抑制し、移動する人々の人権を確保するため、出入国管理政 策や社会統合政策の改革を含む移民政策を構想する。その際、国際社会や国レ ベルのみでなく、自治体レベルの社会的イノベーションの可能性を考える。</p>	
	東南アジアビジネス事情	<p>東南アジア諸国の経済発展と日本とのビジネス関係の深化を主眼とする。講 義の構成は、①東南アジア諸国を中心とし、②日本企業のアジア進出の経緯、 ③主要国・地域における経済発展の過程と実態を概観し、④現地日系企業が抱 える課題を考察し、⑤経済統合、国際分業、異文化マネジメントなどを交えな がら日本企業のアジア展開の課題と展望を学習する。</p>	
	地場産業の海外展開	<p>中小企業を主とする県内の地場産業が海外展開する際に直面する課題につ いて学ぶ。まず、地場産業の海外進出の手順や検討事項、およびネットワークの 築き方について検討した上で、とくに中国進出の際の制度および商慣習やコ ミュニケーションの問題を中心に実例を踏まえて学ぶ。さらに、そうした海外 展開を視野に置いた企業が求める人材マネジメントの考え方について、さまざ まな事例を踏まえて考える。</p>	
個別課題に関する分野	地域の産業発展	<p>世界市場とのつながりの中で近代的な産業発展を経験してきた福井県を含む 北陸地域の産業構造、および地域開発政策について、歴史的な観点とグローバ ルな観点の両面から検討するとともに、現在の当該地域の産業及び経済の抱え る課題について考える。授業の中では、院生各自が所属する企業の経営や自治 体の政策の変遷を調べて発表し組織や組織の展開を改めて歴史の大きな流れの 中で見つめ直す作業を行い、福井県の産業、ないし社会や個別経営の特性と今 後の方向性を探る。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
個別課題に関する分野 アドバンス科目	まちづくり・観光マネジメント論	<p>本授業の前半は、まちづくりマネジメントのあり方について、地域社会、生活者視点に分けて、課題の分析のフレームの提示や課題解決の手法や事例を講義形式で紹介し、各視点について受講者間のワークショップ形式でディスカッションを行い掘り下げていく。具体的には地域社会の視点では、社会統計を用いた地域の社会構造や社会関係の分析や、地域課題分析シートを用いた地域課題の体系的理解と長期的・短期的対処策の検討を行う。また生活者の視点では、個人や家族のライフスタイルについて、過去から現在の変化及び生活者の課題を整理し、対処策の検討を行う。</p> <p>後半は、観光資源の開発や観光客誘致に係る手法、および観光を通じたまちづくりの実践例について提示した上で、自分の所属自治体や企業の実践例を検討し、相互に批判的に検討することを通じて今後の地方における観光政策の方向性と戦略について考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>18 田中志敬/4回 まちづくりのフレームワークと地域課題の分析について学ぶ。</p> <p>19 栗原知子/3回 ライフスタイルと生活者の課題を検討する。</p> <p>26 斎藤薫/8回 観光の諸課題と観光を通じたまちづくりの手法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	企業会計・財務・データ分析	<p>本講義は、企業の国内・国際事業展開に必要なとなるアカウンティング、ファイナンス、データ分析に関する理論を理解し、自身の実践で使えるようにすることを目標とする。講義においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた形で行い、様々なケースを用いてディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>② 岡崎英一/5回 (アカウンティング) 企業の経営成績や財政状態を把握するために必要となる財務会計の理論及び企業会計基準・IFRS等に基づく財務諸表の作成方法について学ぶ。</p> <p>⑤ 前田英史/5回 (ファイナンス) 国内外で資金調達・運用の手法について実務に即して学ぶとともに、そのために必要となる情報の把握・分析の手法について学ぶ。</p> <p>7 井上博行/5回 (データ分析) 企業の事業展開に必要なとなる情報分析の手法、データ処理の際に必要なとなる統計的な手法について、実務に即して学ぶ。</p>	オムニバス方式
	マーケティング論II	<p>本講義では、1年次のマーケティングIで学んだ基礎的なマーケティングの基礎理論を継承し、自身の実践で使えるようにすることを目標とする。講義の内容は、事例研究を通じて、マーケティング戦略の構想・策定(外部・内部環境分析から戦略立案まで)について学ぶとともに、マーケティング戦略を実現・遂行するための人材・組織や、計画・実行・管理の仕組みについて学ぶこととする。マーケティングの実践を多角的に理解できるようにするために、講義はアクティブラーニングを取り入れた形で行い、様々なケースを用いてディスカッションを行う。</p>	
	管理者行動論	<p>目まぐるしく変化する現代社会において、地域コミュニティ、企業や公的機関に代表される組織をより善き方向に導くためには、リーダーとして取りまとめ役となる管理者(マネジャー)の存在が必要不可欠である。本講義では、マネジメントおよび管理者行動、そして、管理者に最も必要とされるリーダーシップについて、それらの諸研究を理解する。さらには、管理者行動やリーダーシップに関するケース・スタディを実施する。ケース・スタディでは、具体的な事例を題材にしてグループ・ディスカッションを行う。</p>	
	国際ビジネスリスク論	<p>国際的な取引の中で通関や税務、その他に関連して直面する法的な諸問題について最低限押さえておかねばならない知識について学ぶとともに、企業が海外で活動する中で、本社も含めて考えておかねばならないビジネス・リスク(会計基準の違い・取引慣行やルールの違い・法律や税の変更・政策のドラステックな変更など)とその対策、及びそのために必要な人材マネジメントの考え方について学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学系科目	English Communication I	<p>グローバル化したビジネス社会の言語である英語に焦点を置き、この科目では、グローバル時代においてうまくコミュニケーションができる能力を育成する。</p> <p>ここでは、英語のスピーキングとリスニングのコミュニケーション能力を高めることを目的とし、CEFRのB1レベルを目標に、国際的な環境の中、限られた言語サポートだけで自立した英語話者（ユーザー）として仕事ができるようにする。科目修了時には、TOEIC500点以上（IELTS 4.5-5）の取得を目指す。授業はワークショップ形式で行い、院生は討論への積極的な参加が求められる。具体的には、ペアでの討論や国際的なビジネス場面での役を演じながら、正式なビジネス交渉の場での同意または不同意の表現の仕方や短いプレゼンテーション方法とその質疑応答方法等を学ぶ。</p>	
	English Communication II	<p>英語コミュニケーションIの上のレベルの科目である。Iと同じく、英語のスピーキングとリスニング能力を高めることをねらいとし、CEFRのB2レベルを目標にする。コース修了時には、院生はTOEIC550点以上（IELTS 5-5.5）の取得を目指す。授業はワークショップ形式で行われ、院生は討論に積極的に参加することが求められる。授業方法は、Iと同様で、しかもその上のレベルの学習を行う。</p>	
	English Reading/Writing I	<p>英語のリーディングとライティングを一体化したもので、それらの能力を更に高めるために、大学院レベルの学習に取り組む。そこでは、批判的なリーディング力、ライティング力、思考力を伸ばし、分析・推論、評価的な力を強め、語彙を増やし、効果的なライティングや専門分野を超えて使う学習ストラテジーを学ぶ。院生は読解をベースにしたライティングを行うが、テキストは、グローバル化した世界において、院生に多様な見解や分析の機会を与えるために様々な分野を含んでいる。この学習を通して、具体的には、読解では、読書速度、語彙力、単語や文脈からの読み取る力、読解力、メタ認知のリーディングストラテジー、クリティカルシンキングと分析力など、ライティングでは、アイデアを生み出し、ライティングがプロセスを重視し、創造的で、問題を解明するものであることを理解させるような多様な活動に取組む。またライティングの構造も学び、簡潔明瞭でよくまとめられた段落とエッセイを作成する。</p>	
	English Reading/Writing II	<p>Reading/Writing Iで培ったリーディング力、語彙力、批判的思考力等を更に伸ばすことに焦点を当てる。Iと同様に、リーディングとライティングを一体化した課題を通して、読解をベースにしたライティングを行う。読解力を高めるために教室を越えた多読の学習に力を入れ、一層批判的、分析的に読めるよう、メタ認知能力を用いた実践的な読解スキルのレポートリーを増やす。院生は口語や文語での教材や、多様な分野や事象についての教材を読み、それについてディスカッションを行うことで理解を深め、そしてライティングを行う。学術的な語彙を増やすだけでなく、論理的に結論を導くために情報を総合的に判断する能力、多数の情報を比較・分析する能力、アカデミックリサーチの実践力等のライティング力を上達させ、リーディング・ライティングストラテジーをどの学問分野でも応用できる能力を培う。</p>	
	Intercultural Communication	<p>実際のビジネス場面や事例研究の分析から見た現代のビジネス現場に重点を置き、実践的な異文化コミュニケーションや異文化理解の基礎を学ぶ。ここでは、文化とコミュニケーションの関係、文化と言語、言語と非言語コミュニケーションにおける文化的な相違、ビジネスやグローバル社会における共通語としての英語の役割を学ぶ。また異文化間の誤解がなぜ起きるのか、異文化間の対立、異文化コミュニケーションにおける潜在的な障害（不安、自民族中心主義、ステレオタイプ、偏見、差別）や文化がどのように個人や職場に影響を与えるか（年齢、性別、性的思考、民族性、宗教、価値観）を学ぶ。さらに、コミュニケーション方法やストラテジーを正しく理解し学ぶ。異なる文化間だけでなく、1つの文化内におけるコミュニケーション方法の違いから何を学べるのかを考察する。</p>	
コミュニケーション中国語	<p>この授業では、ピンインの正確な発話と発話された中国語を正確にピンインで表記するという中国語の発音と基礎語彙、基礎文法を学びながら、中国語圏での生活において、コミュニケーション・ツールとして必要不可欠な中国語の各種表現を修得する。この授業によって、中国語圏に赴任した際に、業務内外で現地の人々と良好な人間関係を築いたり、現地で円滑に日常生活を過ごしたりすることができるレベルの中国語運用能力を身につける。中国語検定試験（中検）4級（低レベル）から4級（中レベル）、漢語水平考試（HSK）2級（低レベル）から2級（高レベル）程度の中国語運用能力の修得を目標とする。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ワークショップ	事業課題ワークショップ	<p>本講義は、1年次に学習したことを、自らの実践に役立てる能力として身につけることを目的として、ワークショップ形式で行う。2日間に分けて、担当教員と院生全員で実施する。</p> <p>連携企業及び院生が所属する企業から事前に提案された課題（例：X社における商品AのB国での販路開拓）について、グループごとに現状および課題を分析する。その分析を踏まえて、各グループにおいて、課題の解決策を考察し、グループごとに、（事業責任者や企画担当者として）仮の事業計画書を作成・プレゼンテーションを行う。</p> <p>2 木村亮, ②岡崎英一, 11城間康文, 12谷口成伸, 13大橋祐之, 15高井愛子, 17村上統朗で共同実施する。</p>	共同
海外実地研修	海外実地研修A	<p>本研究科での科目の履修に着手する際に、海外事業に関する事業感覚や海外での交流体験を共有するために、1年次前期に福井県内企業の海外事業所で1週間程度、業務全般の体験やグループディスカッションを行う。</p> <p>さらに、学習成果を実地に即して振り返り、所属組織での事業展開に貢献できる能力を磨くために、2年次夏季以降に3～4週間の海外での実地研修を行う。この研修では、福井県内企業の海外事業所や県の海外出先機関等において、1カ所ないし複数個所で業務全般の体験を行うとともに、院生が事前に設定した特定のテーマ（現地での市場開拓や事業所進出、外国人材のマネジメント、進出先での業績向上など）に即して、当該研修先や関連取引企業、政府系関係機関等を調査する。</p> <p>①横井正信, 2 木村亮, ②岡崎英一, 4 松田和之, 5 月原敏博, 6 KING KELLY JEAN, 7 井上博行, 8 永井崇弘, ③磯崎康太郎, ④生駒俊英, 11城間康文, 12 谷口成伸, 13大橋祐之, 14細谷龍平, 15高井愛子, 16峠岡伸行, 17村上統朗で共同実施する。</p>	共同
	海外実地研修B	<p>本研究科での科目の履修に着手する際に、海外事業に関する事業感覚や海外での交流体験を共有するために、1年次前期に福井県内企業の海外事業所で1週間程度、業務全般の体験やグループディスカッションを行う。</p> <p>さらに、主に海外経験がある程度ある院生を対象に、所属企業や自治体では経験できない海外で事業に取り組む体験を行い、新たな事業構築の際に必要な知識・経験を身につける。具体的には JICA 海外事務所において、2年次夏季以降に2か月間のインターンシップを行う。JICA の現地での各種支援プロジェクトの進捗管理を行う海外事務所に同行し、パートナーである政府機関、企業、現地住民等、また技術支援員等との面談や打合せに参加することにより、海外での事業構築や運営のノウハウを体得する。</p> <p>5 月原敏博, 8 永井崇弘, 12谷口成伸, 13大橋祐之, 15高井愛子で共同実施する。</p>	共同
	海外実地研修C	<p>本研究科での科目の履修に着手する際に、海外事業に関する事業感覚や海外での交流体験を共有するために、1年次前期に福井県内企業の海外事業所で1週間程度、業務全般の体験やグループディスカッションを行う。</p> <p>さらに、主に海外経験と相当の語学能力を持つ院生を対象に、所属企業や自治体では経験できない長期にわたる海外プロジェクトの運営に携わることで、新たな事業構築に取り組むためのチームワークとリーダーシップを身につける。具体的にはユネスコの海外事務局において2年次夏季以降に半年間の sponsored traineeship に取り組む。相当の語学力を有することが前提となるが、多国籍チームの中で議論し、事業を進める経験を得ることで、multilateral な交渉に対応できる能力を身につける。</p> <p>①横井正信, 4 松田和之, ④生駒俊英, 12谷口成伸, 14細谷龍平, 15高井愛子で共同実施する。</p>	共同
最終報告	最終報告書	<p>本研究科での専門的な学習、および海外実地研修などの授業の中での実践的な力量形成の成果を院生が自身で確認することを目的として、院生各自が設定したテーマについて調査・考察したもの、および2年間で学びの成果を自己評価したものを、最終報告書にまとめる。</p> <p>院生は、指導教員（正・副）と相談して各自のテーマを決定し、テーマに関する調査や考察の方法、および2年間の学びの成果の評価について、指導教員（正・副）により、面談またはメール等の形式で指導を受けて、2年次後期2月に最終報告書としてまとめたものを提出する。</p> <p>この内容については公開の場で発表し、専任教員等（社会人特別選抜により入学した院生は原則としてその所属する企業・自治体関係者を含む）による質疑を受ける。</p> <p>①横井正信, 2 木村亮, ②岡崎英一, 4 松田和之, 5 月原敏博, 6 KING KELLY JEAN, 7 井上博行, 8 永井崇弘, ③磯崎康太郎, ④生駒俊英, 11城間康文, 12 谷口成伸, 13大橋祐之, 14細谷龍平, 15高井愛子, 16峠岡伸行, 17村上統朗で共同実施する。</p>	共同